

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	東北大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	情報リテラシー教育専門職養成プログラム		
主たる研究科・専攻名	情報科学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の 大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 関本 英太郎		

### [教育プログラムの概要]

デジタルネットワークに特徴付けられる情報社会の進展に終わりはない。情報ツールは次々に革新的に進歩し、それが人びとの行動や慣習に大きく作用し、社会のあり方自体が流動的に変化する。この社会の只中を生きる青少年は、インターネットやケータイに代表される情報通信機器を自在にあやつり、苦もなく必要な情報を次々に手にいれる。ところが、他方でこの利便性が有害サイトやネットによるいじめなど、**情報モラル・倫理に関する重大な社会問題**を引き起こしている。しかも現在それに対して有効な対策を打ち出すことができないでいる。この問題解決の手立てのひとつとして、「情報教育」の充実を挙げることができる。**情報社会における「情報教育」の重要性**は改めて言を労するまでもない。しかし、それを担当するには常に最新の技術知と最新の学問的知識が求められる。だが、「情報教育」を預かる現在の小中高の教育現場には、それを学び研究する時間や最新ツールを調達する予算が不足し、したがって適切な教育指導プランを作成できない。またこれから情報教育を担当することを目指す教員には、当然この時代にふさわしい「情報教育」が施されなければならない。これからの時代は、常に時代の先頭に立って「情報教育」とは何かということを教えることができる人材が不可欠である。「情報リテラシー教育専門職養成プログラム」は、まさにこの課題に答えようとする。**時代の課題を的確に判断しそれを解決する情報教育デザイン**を創造・開発する。それを活かし「情報教育」の教員を志す大学院生を指導する人材の育成である。また「情報」科目の授業現場に応用し、適切な指導のもとに担当教員の資質の向上や授業改善に資する。本プログラムは、このように**職能的・高度専門職を養成**することにより、最先端の情報教育を担当できる人材を幅広く養成し、今日の大学に期待される社会的使命・役割に答えようとするものである。

この目標を実現するために、本プログラムでは大学院生は新たに体系付けられた二つのステップを踏む。

**博士前期課程**では、情報教育デザインを設計するための**基礎的理論・知識を習得**する。そのひとつとして、ICTツールに習熟し、データの効率的な検索・編集・伝達方法を学び、質の高いデジタルコンテンツやWEBデザイン作成など、**実習的教育**を受ける。もうひとつには、情報科学研究科の特性を最大限に活かし、**情報社会に関連する最新の学問研究**に取り組む。「情報倫理」は既に情報科学研究科の学生全員が受講する最重要科目に位置づけられているが、他にメディア・リテラシー、リスクマネジメント、知的所有権など、焦眉のテーマとその最新の状況を学習する。この課程を修了することにより、学生は少なくとも「情報教育」をリードできる有能な教員として養成されることになる。

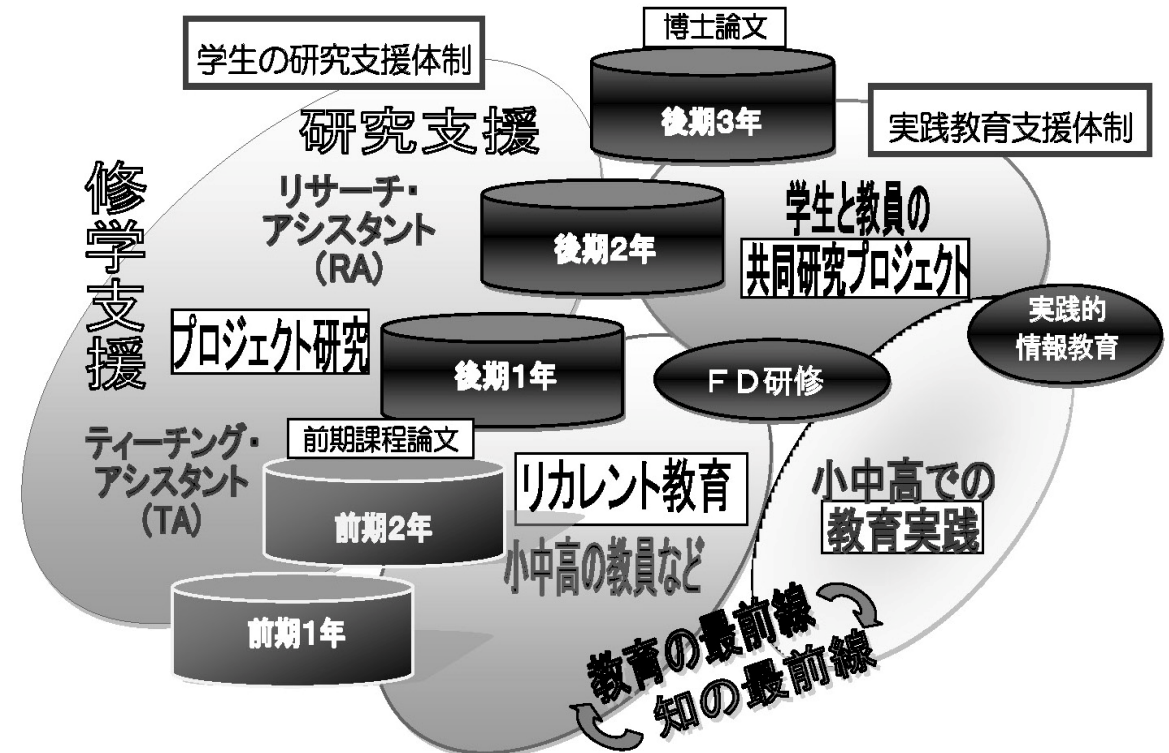
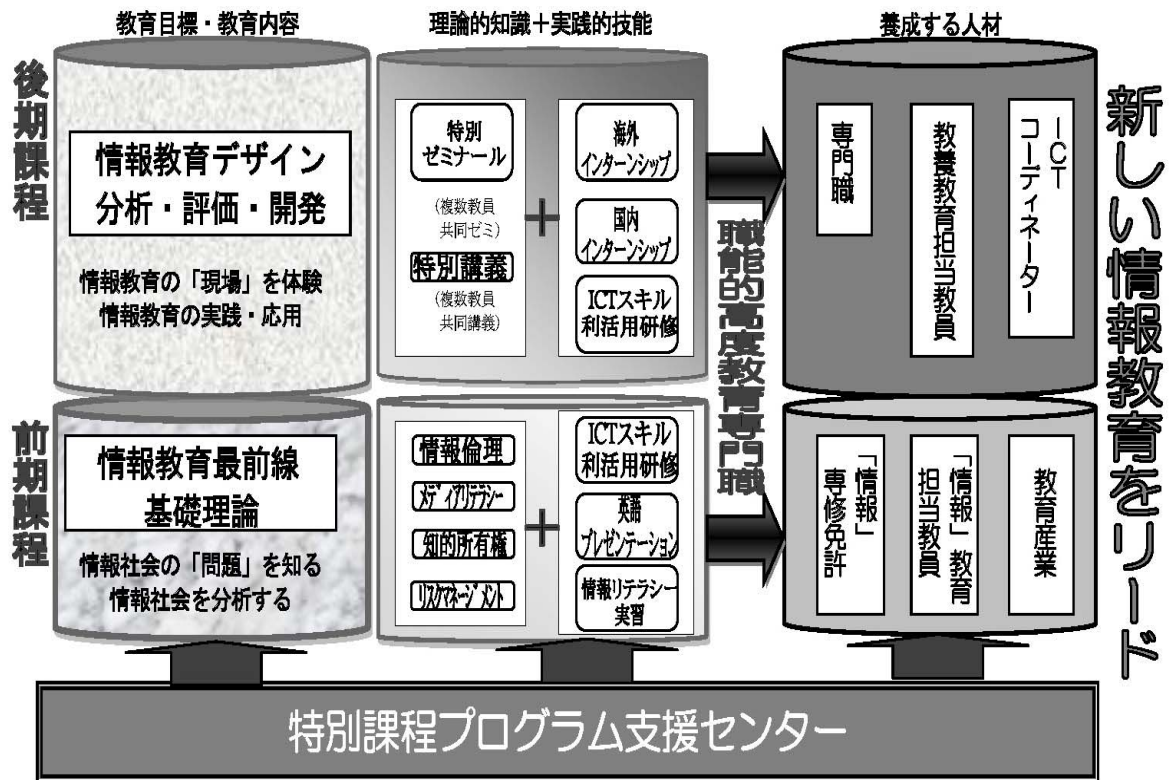
**博士後期課程**の最大目標は、博士学位論文作成である。そのテーマは、前期課程で修得した最新の技術や社会的知を基礎にし、現行の情報教育デザインを分析、評価し、それを踏まえて**時代にふさわしいより高次な「情報教育」を設計し開発**することである。そのために、大学院生は少人数形式の「特別ゼミナール」を受講する。この「ゼミ」では、新たに設置する**「特別課程プログラム支援センター」**に加わる教員及びTA・RAの学生と**共同プロジェクト**を組み、年度毎に課題を明確にしながら目標を達成する。本プログラムは、**実践的にも有効な情報教育をデザイン**できる能力の育成を目指している。そのために、情報教育の現場の現状を知ることは不可欠である。後期課程では**「国内インターンシップ」**を通して情報教育の実態を観察し、経験を積む。実施に当たっては教育委員会や教育研修センターなどに協力を受け、**小中高で実践教育**を施す。授業レベルを上げるために、FD研修を重ねる。また現役の教員の勤務に配慮しながら、情報教育の**「リカレント教育」**も当然計画しなければならない。さらに情報教育の国際的に最先端を走るデザインを構想するには、世界の情報教育の現状を知らなければならない。そのため**長期「海外インターンシップ」**の機会を設ける。博士学位論文作成は、このように実践的にも理論的に実効性に優れた教育体制や指導プランに従って進められる。この後期課程を修了することにより、研究者としてばかりでなく、「情報教育」の現場で実践的に指導できる職能的人材として養成されることになる。

東北大学大学院情報科学研究科は文字通り「情報」を主要テーマとし研究に励んできた。その中で本プログラムは、二つの面で多大な効果をもたらす。ひとつは、「情報教育デザイン」の設計という目標の下に教員の相互連携の強化が図られること。もうひとつは、情報教育の現場の状況や将来設計にも深く関わる職能的人材養成を目指していることから、大学院生も含めて教員にも**実践的資質を求める新たな教員像を創出**することになる。

情報社会は、まさに「情報化」社会である。技術も社会も相補的にすさまじい勢いで変貌する。それにすばやく対応し、問題の発見、解決の方途の探究や処理を行うことができるのは、大学等の教育研究機関以外にない。しかも情報科学研究科は、まさに文字通りこの使命・役割を負った研究科である。課題はいかに**健全で成熟した情報化社会**を作り上げていくかということである。十分な指導体制及び教育プランのもとに**情報社会をリードする教育専門職の養成**を目指した本プログラムは、この課題の解決に向けて多大に貢献することは間違いない。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

## 情報リテラシー教育専門職養成プログラム



<採択理由>

教育プログラムについては、情報社会において「情報教育」の重要性が高まる現在、初等・中等教育の現場における情報教育の教員等の「情報リテラシー教育専門職」の養成という時宜にかなった目的を掲げ、文理融合的な充実した教育体制を整備していることは、高く評価できる。また、本教育プログラムの大学全体の中での位置付けが明確であり、支援期間終了後の展開が期待できる。しかしながら、技術と人間性の涵養を統合するための教育方法については、カリキュラムの更なる検討が必要である。